

女性の暮らしやすい宇部市をつくるプロジェクト

2025 年度報告書

山口大学 経済学部 教授 鍋山 祥子

女性の暮らしやすい宇部市をつくるプロジェクト

1. 提言

A: 女性たちがつながり・元気を生み出す宇部

①「うべ女子会」の定期開催

②女性のアイデアやニーズを市政に届ける仕組みづくり(おしゃべり目

安箱)

・年齢・趣味・状況・抱えている問題など、さまざまなカテゴリーの女性たちによるワークショップを定期開催する。

・そこで集まった意見やアイデアを市政に活かすことができる仕組みをつくる。(実は、すでに実施されている施策である可能性も高く、担当課につなぐことにより、広報の強化につなげる等)

・「女性たちの集い・語らいを支援する宇部」というブランディングをおこない、「うべ女子会」の開催状況などについて、SNSを活用して地域内外に情報発信をする

B: 女性が年齢を重ねるのが楽しみになる宇部(安心して老い

ることのできる宇部)

①女性が求める多機能を備えた「小さな拠点」の充実

②参加できるイベントやグループの可視化(デジタル化)

(背景) 今後、急速に小家族化が進み、老年期を夫婦のみや一人暮らしで迎える人たちが急増する。未婚者も、子育てを終えた人たちも、将来に向けた不安が大きくなる時代、人々にとって重要になるのは、家族以外の「地域とのつながり」である。

将来、誰もが一人暮らしになる可能性があると言っても過言ではない女性にとって、特に切実な問題である。

こうした将来への不安を軽減するための「地域でのつながりづくり」を促進する。そのために、「小さな拠点」の充実をめざす。

- ・「小さな拠点」に求められる条件：地域情報・相談窓口・交流・（趣味仲間・サービス交換・物々交換などの）マッチング・イベント・休憩・カフェ・マルシェ。
- ・地域の人が、歩いて通いたくなる（健康づくりにも寄与する）工夫もする。
- ・宇部市内のふれあいセンターなどで開催されるイベントやサークル活動をweb上で検索できたり、閲覧できるようなシステム開発をおこなう。

2. 提言理由

提言は、①学術的背景 ②うべ女子ラボでの協議 ③地域 well-being 調査 ④タウンミーティングによる市民ワークショップ から導かれた結果である。

それぞれについて、説明する。



2-1. 学術的背景

2-1-1. 「つながり」の重要性

近年、「幸福研究」の蓄積において、明らかになってきたことがある。人が幸せを感じる（主観的幸せ）条件としての「社会関係資本（人への信頼やつながり）」である。そして、このつながり

が、互いに助け合うという交友関係や、その地域のために自分が何かしたいという貢献意識に影響を与えるということである。また、特定のネットワークに積極的に参加している人ほど、主観的健康観や地域に対する貢献意欲が高い（内田2025『日本人の幸せ』中央公論新社）。

地方都市におけるまちづくり指針として国が掲げる「地方創生 2.0」（2025）の基本的な考え方では、「一人ひとりが自分の夢を目指し、『楽しい』と思える地方を、民の力を活かして、官民が連携して作り出していく必要がある」とされている。これまで国の政策において「楽しい」という表現が使用されたことはなく、人々の主観的な満足をそれぞれの地域で追求し、形にしていくという新たな政策立案フェーズに入ったとも言える。

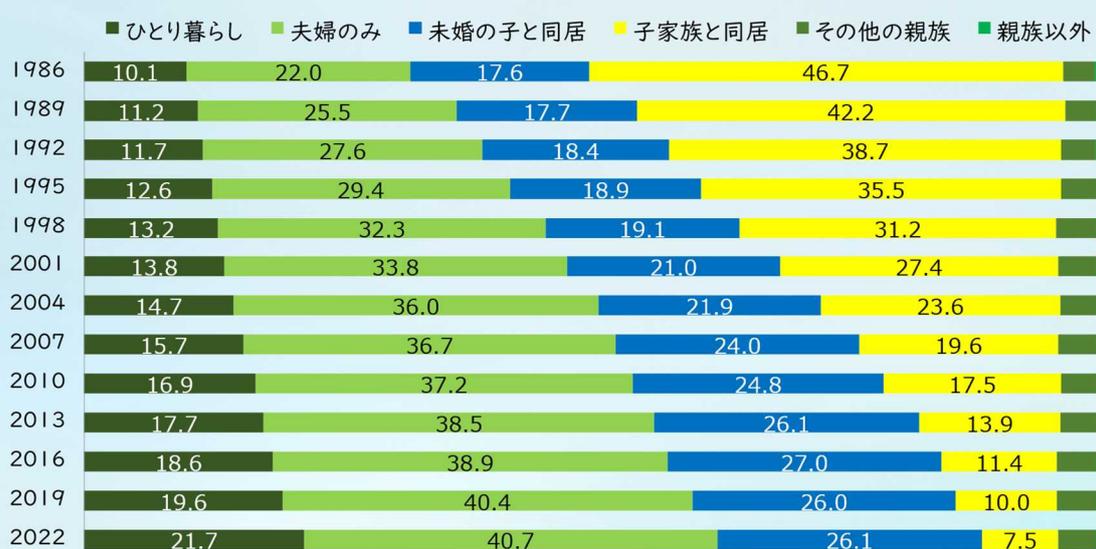
以上のような背景から、提言 A 及び B のように、「つながり」の創出に焦点を絞り、そこから生み出される女性たちの「楽しさ」の実現を支援するという政策が、地域における「女性の暮らしやすさ」につながると思われる。

2-1-2. 「老年期の幸せ」へのフォーカス

人生100年時代と言われる現在、人々の「老年期」が伸びている。それと同時に、家族構造は急速に変化し、2022年の時点で、自分の子ども家族と暮らしている高齢者は1割を下回り、たった7.5%に過ぎない（厚生労働省「国民生活基礎調査」）。それに加えて、地方都市からの人口流出もあり、もはや「子どもたちを当てにした老後の暮らしは」想定できない時代となっている。また、未婚率も高まるなか、今後は家族自体を形成しない人々も増加する。

変化する老年期の暮らし

厚生労働省「国民生活基礎調査」



つまり、家族というつながりが希薄になり、個人で暮らす長い老年期を下支えするのは、まさに「地方自治体」の役割であり、こうした意味からも、「若い頃から老年期への希望が持てる橋渡し」が安心して暮らすことのできる地域づくりとも言える。

また、老年期の幸せへのフォーカスがなぜ「女性」にとって重要であるのかという点については、女性のライフコースにその答えがある。

理由①山口県は、全国的にも「母親役割」が強調される傾向が非常に強い（男女とも意識）。それゆえ、子どもが巣立った後の女性の喪失感が大きい。

理由②平均寿命の男女差と婚姻時の年齢差を掛け合わせると、女性の方が一人暮らしになる割合が圧倒的に高い。現在、一人暮らし高齢者の約7割が女性である。

理由③女性は「つながり」に幸せを見いだすことが多いため、家族以外の関係性の豊かさが生活の質を左右する。

以上から、すべての女性にとっての安心や希望につながる「老年期の幸せ」に焦点を絞ることには妥当性がある。

さらに追加するのであれば、子育て支援や少子化を政策として掲げる自治体は多い（ほとんど）が、「幸せな老年期」「年齢を重ねるのが楽しみになる地域」というテーマを掲げる自治体は希少である。今後、上記のような社会情勢が強まるなかで、宇部市が先進地域として、他自治体から着目されることを期待している。

2-2. うべ女子ラボでの協議

「うべ女子ラボ」は市民、市職員、大学生において組織されている。市職員が当事者としてメンバーに加わることで、市が「自分ごと」としてプロジェクトを動かすという姿勢を示す意図がある。

まず、うべ女子ラボにおいて、「宇部での暮らしの魅力と不足」を収集した。カテゴリー別に整理して、以下に記載する。

【宇部の魅力】

○自然

- ・程よい田舎感
- ・自然が豊か
- ・海も山もある
- ・大きな公園

○安全

- ・歩いて学校に通える

○食べ物

- ・野菜、魚がおいしい

○交通アクセス

- ・空港へのアクセスが最高
- ・東京まですぐに行ける(しかも駐車場無料)

○子育て

- ・子育て支援施設が沢山ある(未就園児)
- ・3人目からお米券がもらえた

○町の景観

- ・工場夜景が綺麗
- ・全体的に町が綺麗
- ・いたるところにモニュメントがある

○医療

- ・病院／医療の充実

○地域のつながり

- ・人が優しい
- ・地域に協力的な人が多い
- ・地元愛が強い人が多い

○飲食

- ・居酒屋さんが集中していて数も多い(宇部新川周辺)

○多様性

- ・ジェンダーレス制服の導入

次に、課題や不足しているところについては、以下の通りである。

【宇部の不足】

○自然

- ・大雨時の道路の冠水

- ・海があるのに綺麗じゃない
- ・下水道の未整備

○土地

- ・地区で人口や地価の差が激しい
- ・ハザードマップにかかる地域が多い

○福祉 医療

- ・介護・医療の人不足

○労働

- ・給与水準が低い
- ・仕事の選択肢が少ない

○商業施設

- ・歩いて行けるスーパーがない
- ・本屋がない
- ・ランチする場所が少ない

○公共施設

- ・公園に遊具が少ない
- ・図書館が少ない(遠い)
- ・屋内で遊べる場所が少ない
- ・道を歩いている人が少ない

○子育て

- ・保育園に入れない

○交通アクセス

- ・バス、電車の便が少ない
- ・終電も早い
- ・新幹線の駅までが遠い

○多様性

- ・男性の考え方が古い(性別役割分業観)

実際の満足や不足を挙げると、店の充足や公共施設の状況など、宇部市としてひとくくりできないものも多く、市全体として考える際の難しさがわかった。

さらに、うべ女子ラボメンバーで「女性が暮らしやすいとはどういうことか」について意見を交わした。その結果を以下に示す。これもカテゴリー別に整理している。

【女性が暮らしやすい地域】

○安心できる老後

- ・介護に対する安心感
- ・孤立しない
- ・介護施設が多くあること

○子どもの居場所

- ・子どもを長時間遊ばせられる場所がある
- ・子どもが放課後や長期休みに過ごせる施設がある
- ・安全性が高い
- ・夏場の子どもの遊び場所(室内や日よけ、水遊びでもいい)
- ・教育の選択肢が多い(塾や高校、大学、習い事)
- ・習い事ができるところが近くにある

○子育てのしやすさ

- ・学校行事参加の負担軽減
- ・子育てに夫、家族、地域や職場が協力的(ともいく)
- ・子育てしやすい環境の充実

○働きやすさ

- ・経済的自立
- ・希望の仕事に就ける
- ・安定した職に就ける(非正規雇用ではない)
- ・仕事と介護が両立しやすい
- ・仕事とそれ以外のこと(地域活動やボランティア)を両立しやすい
- ・子育ても仕事も充実して両立できる
- ・育休・産休からの社会復帰のしやすさ

○豊かな自然

- ・ウォーキングできるところが多い(自然が多い)
- ・静かな環境
- ・自然が豊か(きれい)
- ・水がきれい
- ・歩道に日陰がある

○お気に入りの場所(サードプレイス)

- ・近くに気に入ったスーパーがある
- ・ランチできる場所が多い
- ・お気に入りの場所がある
- ・一人で入れる飲食店が多い
- ・休みの日に出かけたいスポットがある(店、映画館、公園など)
- ・おいしい日本酒のあるお店が多い
- ・友だち、家族と集える食事ができるところがある

○仲間とのつながり

- ・頼れる場所がある
- ・頼れる人が近くにいる
- ・近所が仲良し
- ・地域内でのつながり(人間関係)
- ・友人と飲食に出かけやすい
- ・相談しやすい場所がある
- ・仲間がいること
- ・孤独じゃない

○医療の安心

- ・医療サービスが受けやすい(医療機関へのアクセス、診察料)
- ・医療機関が近くにある

○豊かな消費

- ・野菜や果物など新鮮なものが食べられる
- ・ほしいものが手に入りやすい
- ・気に入った服や物が購入できる
- ・ミールキットをたくさん販売しているお店がある
- ・大型の商業施設がある

○安全

- ・災害時のケア(トイレ・生理)
- ・防災の意識が高い
- ・一人で歩いても安心・安全
- ・夜に歩いても安心(道が暗くないとか)
- ・小・中学校の体育館のトイレにおむつ替えのシートがあるといい(避難所になることがあるため)

○交通

- ・移動しやすい
- ・主要な都市へのアクセスがいい
- ・生活動線がいい
- ・駐車場が広くて停めやすい
- ・ガソリンが安い

○自由

- ・性別を気にしないで生活できる
- ・やりたいことができる
- ・自分の時間が持てる

それぞれの意見はもちろん、それぞれ示唆に富んだものであるが、女性が暮らしやすさを感じるポイントとなるカテゴリーを再掲すると、「安心できる老後」「子どもの居場所の充実」「子育てのしやすさ」「働きやすさ」「享受できる豊かな自然」「お気に入りの場所(サードプレイス)があること」「仲間とのつながり」「医療の安心」「豊かな消費ができること」「安全な環境」「便利な交通」「自由(裁量性)」であった。

興味深いことに、これらは学術的な蓄積のもと選定された「地域 well-being」のカテゴリーとも一致する。つまり、「女性の暮らしやすさ」を探る本プロジェクトを進めるうえで、地域 well-being 調査を使用する有用性の裏付けとなった。

2-3. 地域 well-being 調査

デジタル庁が提供している「地域 well-being 調査」を実施。期間は7/1(火)~7/31(木)の1ヶ月。宇部市の公式 LINE や市報、また、ふれあいセンターなどでのポスター掲示によって、調査実施を告知した。

アンケートご協力をお願い

みんなが暮らしやすい宇部市にするために

あなたの声を届けてください

回答はウェブから

紙での回答を希望される場合、
入庫（宇部市市民センター市民参加課）に回答用紙を郵送してください

- ・ 本アンケートは、女性の暮らしやすい地域を目指す
政策検討などのため実施します
- ・ 結果は、今秋開催予定のタウンミーティングで発表します
- ・ デジタル庁のWell-Being（地域幸福度）指標に準拠したアンケートで、個人が特定されることはありません
- ・ 回答に10分程度を要します

〆切 7/27（日）まで

UBE宇部市
宇部市人権・男女共同参画推進課
電話 34-8308 FAX 22-6010

女性の暮らしやすい宇部市をつくるプロジェクト

その結果、web 回答626件、アンケート用紙回答560件の計1186件の回答を得ることができた。年齢性別の内訳を以下に示す。

調査結果

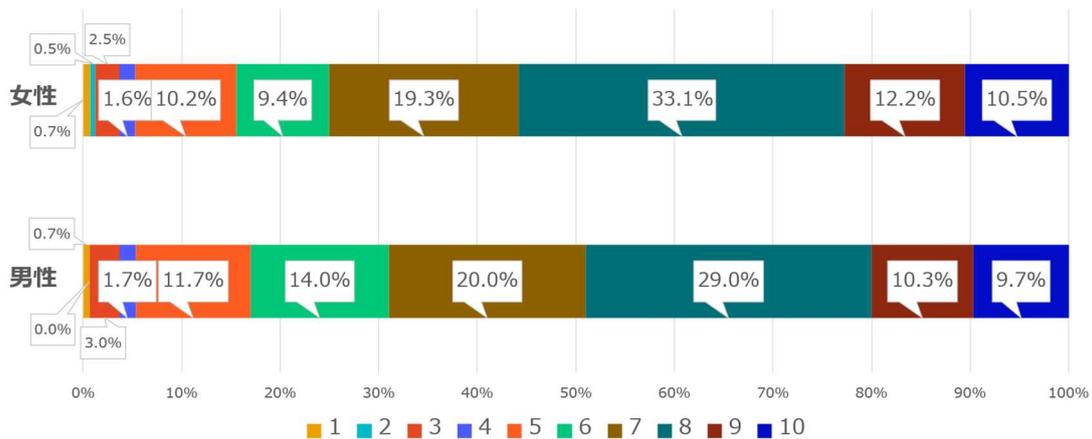
- 実施機関：2025.7.1～31（1ヶ月）
- Web回答（626件）+アンケート用紙回答（560件）
=有効回答数 1,186件

	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	総計
男性	0.1%	2.0%	3.4%	4.3%	5.5%	5.2%	5.0%	1.4%	26.8%
女性	0.8%	3.3%	5.8%	12.3%	14.1%	18.2%	15.5%	2.8%	72.8%
その他	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.4%
総計	0.9%	5.4%	9.2%	16.7%	19.7%	23.6%	20.4%	4.1%	100.0%

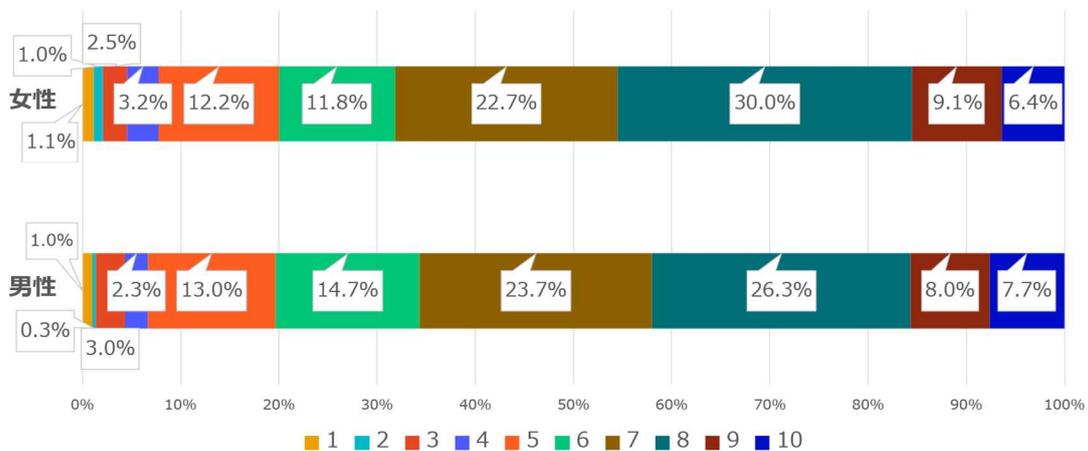
2-3-1. 主観的幸福感

まず、今の暮らしを幸せだと思っているか、今の暮らしに満足しているのかという設問に対する回答が以下の通りである。

男女別幸福度（とても不幸⇒とても幸せ）



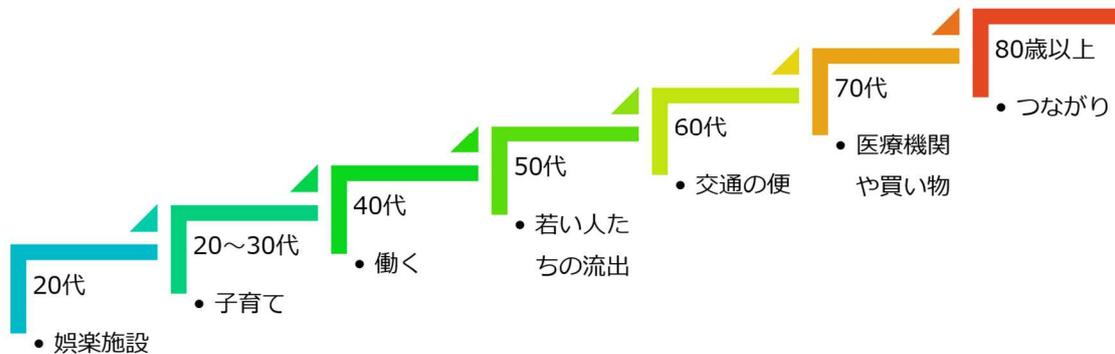
男女別満足度 (地域の暮らしにとても不満 ⇒とても満足)



ここから、男性よりも女性の方が幸福度、満足度ともに高い傾向が見られ、女性の8割以上が幸福や満足を感じているという結果になった。

また、今回、「あなたにとって暮らしやすい地域とは？」という自由回答を独自に設けたところ、女性305件、男性135件、それ以外20件の合計460件の回答を得た。テキストマイニングの共起ネットワーク分析の結果、8つの要素(1. 災害などがなく安心できる 2. 若い人などの賑わいがある 3. 買い物や公共施設が充実している 4. 歩ける距離で生活が充足する 5. 移動に困らない 6. 自治会の活動が機能している 7. 安全で治安のいい地域環境)が抽出された。

年齢別で異なる「暮らしやすさ」の指標



若い頃は、自分が楽しめる場所の有無が暮らしやすさのポイントだが、子どもを持つ年齢（30代）になると、それが子育てのしやすさになり、40代は子育てにもお金がかかるようになり、また女性も子育てをしながらも働くことを考えるようになるため、自分が望む条件で、自分らしく働けることに暮らしやすさを感じるようになる。その後、子どもが大学や就職によって独立する50代になると、地元から都市部に子どもたちが流出することによる喪失感と危機感に直面することになる。また、60代になると、やがて車を運転できなくなったときの生活に不安を感じ始め、70代になると健康問題に直面するがゆえに医療機関の存在が重要になると同時に、それまでの車を使った生活スタイルの変容が求められるがゆえに買い物の不便さが問題となる。その後、80代になると「人とのつながり」が特別な意味を持って重要に感じられるということである。

こうしてみると、今回、「女性の暮らしやすさ」として旗を掲げるのは、どこかのステージに特化するのではなく、「やがて、みんなが老いる」ことを前提に、「将来の安心」という受け皿を整備することではないかという結論が見える。ライフステージにおいても、漠然とした将来の不安は、すべての年代の女性の不安につながっている。

再掲になるが、以上のような不安が何故、女性に強く表れるのかについて、女性のライフコースから理由を示す。

理由①山口県は、全国的にも「母親役割」が強調される傾向が非常に強い（男女とも意識）。それゆえ、子どもが巣立った後の女性の喪失感が大きい。

理由②平均寿命の男女差と婚姻時の年齢差を掛け合わせると、女性の方が一人暮らしになる割合が圧倒的に高い。

理由③女性は「つながり」に幸せを見いだすことが多いため、家族以外の関係性の豊かさが生活の質を左右する。

2-3-2. 客観的幸福感

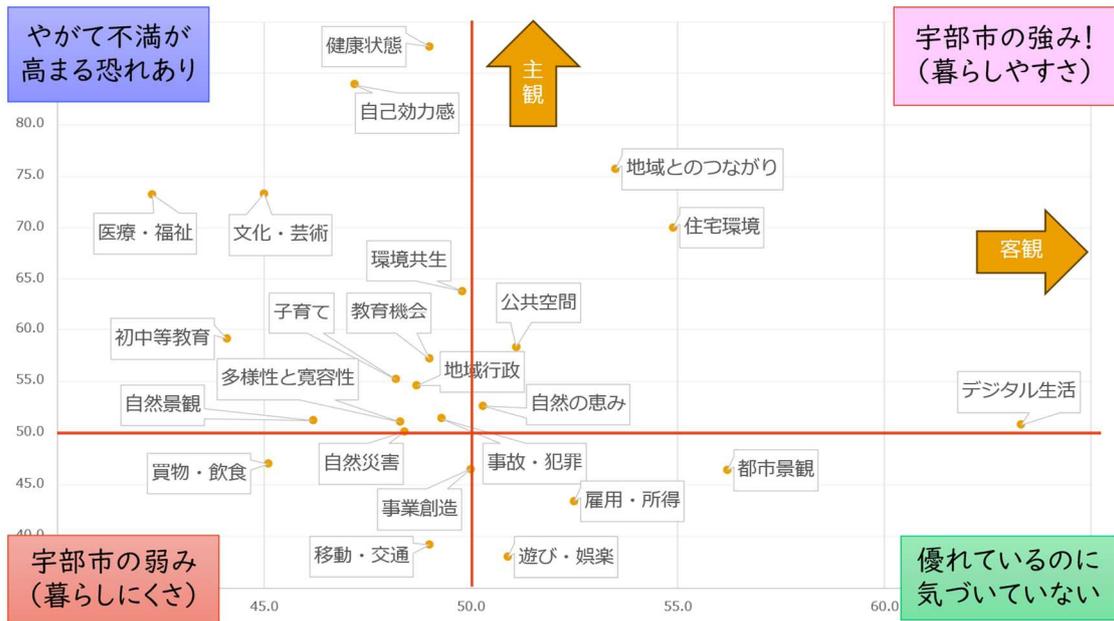
デジタル庁の「地域 well-being 調査」では、回答者の回答とともに、現在の宇部市の数値データによる客観的な評価を偏差値という形で参照することができる。それにより、宇部市の強み（主観的満足度・客観的評価ともに高い）や弱み（主観的満足度・客観的評価ともに低い）、また、市民が気づいていない強み（主観的満足度が低く、客観的評価が高い）や今のうちにテコ入れすべき弱み（主観的満足度が高く、客観的評価が低い）などを知ることができる。

幸福度を「暮らしやすさ」に活かす

	客観データ 不足	客観データ 充足
主観満足	<p>(主観50以上、客観50未満)</p> <p>やがて不満が高まる恐れあり ↘</p>	<p>(主観と客観の偏差値50以上)</p> <p>宇部市の強み！ (暮らしやすさを感じるトコロ)</p>
主観不満	<p>(主観と客観の偏差値50未満)</p> <p>宇部市がとても弱いところ (暮らしにくさを感じるトコロ)</p>	<p>(主観50未満、客観50以上)</p> <p>優れているのに、市民が気づいていない ⇒ もったいない！ みんなが気づけば「強み」に変わる ↗</p>

28

今回の調査結果を見ると、以下のようなになる。



それぞれのカテゴリーの客観データについての詳細を以下に示す。

市区町村版 暮らしやすさ客観指標のカタログ			
生活環境 (16)			
医療・福祉 <ul style="list-style-type: none"> 医療施設徒歩圏人口カバー率 医療施設徒歩圏平均人口密度 (-) 人口あたり国保医療費 (-) 人口あたり後期高齢者医療費 (-) 特定健康診断受診率 福祉施設徒歩圏人口カバー率 福祉施設徒歩圏平均人口密度 (-) 人口あたり児童福祉施設数 人口あたり障害者施設数 人口あたり認知症サポートセンター数 	遊び・娯楽 <ul style="list-style-type: none"> 人口あたりの娯楽 (映画館、劇場、スポーツ施設等) の事業所数 	公共空間 <ul style="list-style-type: none"> 公園緑地徒歩圏人口カバー率 人口あたり公園の面積 歩道設置率 ウォーカブル指数 	環境共生 <ul style="list-style-type: none"> NOx平均値 (-) PM2.5年平均値 (-) ゴミのサイクル率 人口あたり年間CO2排出量 (-) 人口あたり再生エネルギー 環境政策指数
買物・飲食 <ul style="list-style-type: none"> 商業施設徒歩圏人口カバー率 商業施設徒歩圏平均人口密度 (-) 可住地面積あたりの飲食店数 人口あたり飲食店数 	子育て <ul style="list-style-type: none"> 保育所まで1km未満の住宅割合 可住地面積あたり幼稚園数 施設あたり幼稚園児数 (-) 施設あたり待機児童数 (-) 歳出総額における教育費の構成比 合計特殊出生率 	都市景観 <ul style="list-style-type: none"> 都市景観指数 	自然災害 <ul style="list-style-type: none"> 外水氾濫危険度 高潮危険度 土砂災害危険度 地震動危険度 津波危険度 ハート対策 避難・救助 要配慮者支援 防災教育 防災まちづくり 情報・デジタル防災
住宅環境 <ul style="list-style-type: none"> 住宅あたり延べ面積 平均価格 (住宅地) (-) 専用住宅1m2あたり家賃 (-) 一戸建の持ち家の割合 	地域行政 <ul style="list-style-type: none"> 人口あたり体育施設利用者数 人口あたり図書館帯出者数 人口あたり博物館入館者数 地域財政指数 	自然の恵み <ul style="list-style-type: none"> 食料生産ポテンシャル 水供給ポテンシャル 木材供給ポテンシャル 炭素吸収量 蒸発散量 地下水涵養量 土壌流出防止量 窒素除去量 リン酸除去量 NO2吸収量 SO2吸収量 洪水調整量 表層崩壊からの安全率 緑地へのアクセス度 水域へのアクセス度 オートキャンプ場への立地 	事故・犯罪 <ul style="list-style-type: none"> 人口あたり交通事故件数* (-) 人口あたり刑法犯認知件数* (-) 空家率 (-)
移動・交通 <ul style="list-style-type: none"> 駅またはバス停留所徒歩圏人口カバー率 駅およびバス停留所徒歩圏人口密度 (-) 人口あたり小型車走行キロ (-) 通勤通学に自家用車・オートバイ・タクシーを用いない割合 職場までの平均通勤時間 (-) 	初等・中等教育 <ul style="list-style-type: none"> 可住地面積あたり小学校数 可住地面積あたり中学校数 可住地面積あたり高等学校数 施設あたり小学生数 (-) 施設あたり中学生数 (-) 施設あたり高校生数 (-) 	デジタル生活 <ul style="list-style-type: none"> 自治体DX指数 デジタル政策指数 デジタル生活指数 	<small> 指数を構成するKPIはP14~15を参照 *各都道府県・市区町村HP等から取得 (-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出 </small>

市区町村版 暮らしやすさ客観指標のカatalog

指数を構成するKPIは次ページを参照
 *各都道府県・市区町村HP等から取得
 (-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

地域の間関係 (2)

地域とのつながり

- 人口あたり自殺者数 (-)
- 拡大家族世帯割合
- 既婚者の割合
- 高齢単身世帯の割合 (-)
- 居住期間が20年以上の人口の割合
- 祭り開催数
- 自治会・町内会加入率*
- 人口あたり政治団体等の数
- 人口あたり宗教の事業所数
- 人口あたりNPOの数
- 人口あたり都市再生推進法人・UDCの数
- 関係人口創出活動指数

多様性と寛容性

- 議会における女性議員の割合
- 自治体の管理職職員における女性の割合
- 自治体職員における障害者の割合
- 人口あたり外国人人口
- 多様性政策指数

自分らしい生き方 (6)

自己効力感

- 首長選挙投票率
- 市区町村議会選挙の投票率

健康状態

- 健康寿命 (平均自立期間) (男性)
- 健康寿命 (平均自立期間) (女性)

文化・芸術

- 芸術家・著述家等の割合
- 国宝・重要文化財 (建造物) の数
- 日本遺産の数

教育機会の豊かさ

- 大卒・院卒者の割合
- 可住地面積あたり大学・短期大学の数
- 可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数
- 人口あたり生涯学習講座数
- 人口あたり生涯学習講座受講者数
- 人口あたり青少年教育施設利用者数
- 人口あたり女性教育施設利用者数

雇用・所得

- 完全失業率 (-)
- 若年層完全失業率 (-)
- 正規雇用者比率
- 高齢者有業率
- 高卒者進路未定者率 (-)
- 市区町村内で従業している者の割合
- 創業比率
- 納税者あたり課税対象所得

事業創造

- クリエイティブ産業事業所の構成比
- 新規設立法人の割合
- 従業者数あたりコワーキングスペースの数
- 大学発ベンチャー企業数

35

今回の調査における主観的満足度を男女別に整理したのが以下の図である。男女差を検討するうえで、より正確な対比にするために次のような操作をおこなった。男性よりも女性の方が全体的な満足度が高い傾向にあるので、前提として、女性の方が男性よりも満足度が高くなることを考慮し、女性の方が男性より2ポイント以上満足度が高いものに注目(色づけ)した。

前提：女性>男性
 ・女性<男性をblue
 ・女性>男性が2ポイント以上をpink

男女別主観的 well-being

	健康状態	自己効力感	地域とのつながり	文化・芸術	医療・福祉	住宅環境	環境共生	初中等教育	公共空間	教育機会の豊かさ	子育て	地域行政
女性主観	89.0	86.2	77.4	73.8	73.3	70.8	65.0	60.1	58.6	57.5	55.0	54.3
男性主観	82.8	76.6	70.1	73.0	72.2	70.0	59.8	58.7	59.4	55.6	57.4	56.1
男女差	6.2	9.6	7.3	0.8	1.1	0.8	5.2	1.4	-0.8	1.9	-2.4	-1.8

	自然景観	自然の恵み	事故・犯罪	デジタル生活	自然災害	多様性と寛容性	都市景観	事業創造	買物・飲食	雇用・所得	移動・交通	遊び・娯楽
女性主観	53.3	53.3	52.5	51.7	50.4	49.8	48.0	45.3	45.0	42.5	39.2	37.7
男性主観	45.4	51.2	48.2	47.5	49.0	52.1	41.2	47.7	54.0	44.3	38.7	38.2
男女差	7.9	2.1	4.3	4.2	1.4	-2.3	6.8	-2.4	-9.0	-1.8	0.5	-0.5

その結果、男女で主観的満足度が異なる領域が明らかとなった。女性の方が満足度が顕著に高いものは、自己効力感、自然景観、地域とのつながり、都市景観、健康状態、環境共生、事

生活環境（16因子、27問）

No.	因子	設問
5	医療・福祉	暮らしている地域は、医療機関が充実している
6	医療・福祉	私の暮らしている地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい
7	買物・飲食	暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない
8	買物・飲食	私の暮らしている地域では、飲食を楽しめる場所が充実している
9	住宅環境	自宅には、心地のいい居場所がある
10	住宅環境	【逆】自宅の近辺では、騒音に悩まされている
11	住宅環境	私の暮らしている地域では、適度な費用で住居を確保できる
12	移動・交通	私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる
13	遊び・娯楽	私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある
14	子育て	私の暮らしている地域では、子育て支援・補助が手厚い
15	子育て	私の暮らしている地域では、子どもたちがいきいきと暮らせる
16	初等・中等教育	私の暮らしている地域では、教育環境（小中高校）が整っている
17	初等・中等教育	私の暮らしている地域では、通学しやすい場所に学校がある
18	地域行政	暮らしている地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う
19	地域行政	暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である
20	デジタル生活	私の暮らしている地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる
21	デジタル生活	私の暮らしている地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい
22	公共空間	暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい
23	公共空間	私の暮らしている地域には、まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある
24	都市景観	私の暮らしている地域には、自慢できる都市景観がある
25	自然景観	私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある
26	自然の恵み	暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる
27	自然の恵み	暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる
28	環境共生	私の暮らしている地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである
29	自然災害	私の暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている
30	事故・犯罪	私の暮らしている地域は、防犯対策（交番・街燈・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい
31	事故・犯罪	私の暮らしている地域では、歩道や信号が整備されていて安心である

+3以上	●
+6以上	●
-1以上	●
-4以上	●

地域の人間関係（2因子、10問）

No.	因子	設問
32	地域とのつながり	私は、同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している
33	地域とのつながり	私の暮らしている地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである
34	地域とのつながり	暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる
35	地域とのつながり	私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする
36	地域とのつながり	私は、この町内（集落）に対して愛着を持っている
37	多様性と寛容性	この町内（集落）には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある
38	多様性と寛容性	私は、見知らぬ他者であっても信頼する
39	多様性と寛容性	私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる
40	多様性と寛容性	私の暮らしている地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある
41	多様性と寛容性	私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある

+3以上	●
+6以上	●
-1以上	●
-4以上	●

自分らしい生き方（6因子、9問）

No.	因子	設問
42	自己効力感	自分のことを好ましく感じる
43	健康状態	私は、身体的に健康な状態である
44	健康状態	私は、精神的に健康な状態である
45	文化・芸術	暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい
46	文化・芸術	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい
47	教育機会の豊かさ	私の暮らしている地域では、学びたいことを学べる機会がある
48	雇用・所得	私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい
49	雇用・所得	私の暮らしている地域では、適切な収入を得るための機会がある
50	事業創造	暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある

以上の分析から、タウンミーティングにおいて市民のみさんから意見やアイデアを収集するテーマを次の6つに絞った。

タウンミーティング（WS）テーマ

①②女性の「暮らしやすさ」のポイント（自由回答）③「多様性と寛容度」の重要なポイント「労働」
④⑤男性より女性の満足度がかなり低い項目⑥女性の「暮らしやすさ」のポイントである徒歩圏内の
充実に関連し、同時に女性に多い「公共施設が使いにくい」という指摘（自由回答）から

①女性（誰も）が
安心・安全に暮らせる
地域とは？

②子ども（子育て）に
優しい地域とは？

③女性が「働く」こと
で自分を活かすために
必要なことは？

④女性や若者が活躍
しやすい（意見が反映
される）地域とは？

⑤安心して老いること
ができる地域とは？

⑥女性（誰も）が利用
したくなる（利用しや
すい）公共施設とは？

理由とともに具体的に解説する。

①女性が安心・安全に暮らせる地域

②子ども・子育てに優しい地域

これらのテーマは、「暮らしやすさ」のポイントとして、女性が自由回答で挙げる傾向が強かったものである。

③女性が「働く」ことで自分を活かせる地域

これは、主観的満足度が男性より低かった「多様性と寛容度」にとって、女性が働いて自己実現や経済的自立、また性別役割分業からの離脱を可能にする「労働」に焦点をあてている。

④女性や若者が活躍しやすい（意見が反映される）地域

⑤安心して老いることができる地域

これらは、主観的満足度において、男性よりも女性が大幅に低かった項目である。

⑥女性が利用したくなる（利用しやすい）公共施設

これは、「暮らしやすい地域」の自由回答として女性のこだわりが強かった公共施設の使い勝手とともに、徒歩圏内の暮らしの充実に関連する項目である。

2-4. タウンミーティング

12/13(土) 10~12 時に、宇部市役所の交流棟でタウンミーティングを開催した。当日は高校生、大学生、うべ女子ラボメンバー、市民のみなさんの合計41名の参加があった。



令和7年10月

Well-being(幸福)を感じるまちであるために
女性の暮らしやすい宇部市をつくるプロジェクト

タウンミーティング 参加者募集

参加無料

令和7年12月13日(土曜日) 10時~12時
宇部市役所 市民交流棟 1F 交流ホール

プログラム

1. プロジェクトの進捗報告
2. Well-Being調査結果報告
3. ワークショップ「女性の暮らしやすさを考える」

ワークショップのテーマ	進行
① 安心・安全に暮らせる地域	山口大学
② 子ども・子育てに優しい地域	副学長
③ 女性が働きやすい地域・職場環境	ダイバーシティ推進室長
④ 女性や若者の意見が反映される地域	経済学部教授
⑤ 安心して老いることができる地域	鍋山 祥子
⑥ 女性や誰もが利用しやすくなる公共施設	

参加方法 男性も歓迎 託児あり

11/28(金)までにお名前、連絡先電話番号と、希望テーマ(関心のある順に3つ)をフォームまたは裏面の申込書で事務局へ申込
傍聴のみの場合、申込は不要です。

申込フォーム 

UBE 宇部市 女性の暮らしやすい宇部市をつくるプロジェクト
ワーキンググループ「うべ女子ラボ」
事務局 宇部市人権・男女共同参画推進課
電話 34-8308 メール jinken@city.ube.yamaguchi.jp
未来を彫刻するまち

まず、篠崎市長によって、本プロジェクトにかける「思い」をみなさんに表明していただいた。次に、鍋山から、地域 well-being 調査の結果について解説をした。

その後、あらかじめ選んでもらった、前掲の6つのテーマについて、参加者のみなさんによるワークショップを実施した。グループは、①女性が安心・安全に暮らせる地域×1 ②子ども・子育てに優しい地域×2 ③女性が「働く」ことで自分を活かせる地域×2 ④女性や若者が活躍しやすい(意見が反映される)地域×1 ⑤安心して老いることができる地域×1 ⑥女性が利用しやすくなる(利用しやすい)公共施設×1 の合計8チームとなった。

それぞれのテーマを実現するにはどうすればいいか?という観点で意見交換をして、最後には、全体に向けた発表をもらった。

それぞれのテーマごとに出た意見（クリーム色）と、それらの意見を集約した結果（薄緑色）を示す。

① 女性が安心・安全に暮らせる地域

防犯の強化

人に頼れる地域づくり（顔が見える・助け合える・つながっている）

自転車や徒歩でも安全な道づくり

災害時に備えた取り組み

充実した防犯

安心して一人暮らしができる地域に(防犯)

周りを明るくすると安心です

地域全体で子育てができる

地域全体での子育て

安心して子どもを外遊びさせたい

自転車で安心して道を通れるようになりたい

屋根がある道が安心

タクシー・バスの充実

スーパーが近いと安心

助けを求めることが自然にできる

必要な人への手助け

何かあったときに助け合える関係づくり

町内ごとのつながりがうまくいくまちづくり

人とのつながりを大事にする

顔見知りになる

お互いへの気配り

性別、職業、地位、貧富の差に関係なく 一個人として人を見る

② 子ども・子育てに優しい地域

保育サービス（保育所・病児保育・一時保育）の充実

家族で出かけることができる場所の充実

アレルギー対応など食品のバリエーションの充実

育児の「助け」を求めやすい仕組み

子連れに優しい公共交通

道の暗さの改善や安全の確保

子育て中の息抜きができるようなサービス

お父さんの育児参加の促進（働き方改革）

卒業、夜更も受けられる施設のところが増えるといい

3時以降を持っても夜更施設を確保してほしい（全ての子どもを保護）

子育てを楽にしたいので、ふるさと納税の品目を充実させる

保育園の充実

保育園の充実

ファミリーサポートの充実

公共交通機関、電車、バス等の確保を確保してほしい

電車の数がなくて困る

高齢者も利用しやすい

公園がもっとたくさん欲しい

③女性が「働く」ことで自分を活かすには

子どもの頃から「女性やお母さんが働くこと」へのイメージづくり・発信

職場環境の改革（経営層の意識改革・アドバイス・支援）

家庭・地域・職場での男女での役割分業観を払拭する

子どもを持った時の働き方や育児責任などの男女の区別をなくす

働くイメージを早くからつけることができる機会・イベントをつくる	女性＝職位低いイメージの払拭
若いうちから(高校生以下)、働く人の接点づくり	性別ではなく個人の能力を見て評価してもらえる環境
子どもを持ったときに働くイメージを持ってもらう	性別関係なく自分らしく働ける環境
子どもを預けるより前の時期に社会との関わりを持てる社会	学童保育の時間の延長
お試し期間があるよね	楽しく働ける環境が整っている
育休が平等に取得できる	年齢関係なく話しやすい
育児の負担を男女同じように分散できる	フレキシブルに働ける
みんなでやる	地域の役員とかは男性が選ばれる
女性が休職する負荷が独身男性・独身女性にいかない(偏らない)制度	男性と同じように働いていても家事は女性がやると思われている
保育園のお迎えの調整(家族、家族以外も)	お祭りのときとかの調理担当は女性
自分のいい時間で働くことができる(フレックスタイム)	女性も男性と区別せずに教育の機会を作り、昇進の道を作って
ネイルOK	リーダー育成
お茶くみをしなくていい	女性役員が一定数いる企業
ちゃんと人の意見を聞いてくれるところ	地域ではなく、まずその職場にいいリーダーがいると変わる
駐車スペースが広い	賃金格差がないこと
トイレが男女別	仕事を持つことは大事
子育て支援機関が職場に近い	仕事は自己実現
年齢関係なく平等に働ける環境	お金を稼ぐことを夫任せにしない
出産や結婚について聞かれない	

④女性や若者が活躍しやすい（意見が反映される）地域

テーマ別の座談会（定期開催）

アイデアを表現できる＝夢が叶う宇部（ヤル気が形になる宇部）

議員に声を届ける（座談会での議員と市民の交流）

おしゃれな交流スペース（若者や女性が常駐・カフェマシーン・地域について語る機会を設ける）

仲間づくり（アイデアベースで募る・勉強会からのつながりを育てる）

高校生がタウンミーティングに参加しやすい

今日のような座談会が頻繁に行われるといいかもです。月一でその月にテーマに沿って話をするサロンに市役所の方が参加されていると意見が吸い上げやすくなりそう

若者≠学生なので学生だけを優遇して意見を聞いても不公平。社会人の意見も聞く！

座談会よりももっとラフな交流会が開催されて地元の食材が使われた料理を食べながら思いのままに意見を述べる機会があるといいですね。

サロンにテーマごとの看板を立ててその話題について誰とでも話せるおしゃれな場所があるといいなと思います

若者・女性のリーダー仲間づくり

女性議員の数を増やす

声を届けてくれる人を増やす（一般市民でも）

若者委員会。メンバーは宇部市から選抜

宇部市としては若者の意見を反映する仕組みや市政は十分整っているが、宇部市に対する意見を持っている学生は少ない！学生が主体となって話し合う機会を設け定期的に市への提言する仕組みを作る

若者委員会

アイデアを形にできる（応援してもらえる）

バス停と彫刻の整備

宇部新川駅にバスの線路図を設置

宇部新川駅の交通局営業所時間外にアンケートボックスがシャッターの内側になり、意見を入れられない

⑤ 安心して老いることができる地域

とにかく「つながり」「相談」「情報」
学び続ける機会
自分が役立てるしくみ
移動の利便性

万が一のときには早めに誰かに気づいてほしい（孤独死は避けたい）
子どもや孫が近くに住んでくれる
助けをもらいたい時に低料金でやってもらえるところがたくさんできれば嬉しい
困ったときに安心して助けを求められる
SOSを出しやすい
受付の人がいて何でも相談できる場所がある
安心して話を聞いてもらえる場所がある
自分の寂しさや悲しさを誰かに安心して聞いてもらえる場所、相手がいる
どんなことでも相談できる場所がある
色んな気になることを（健康・お金・暮らしなど）まとめて一か所で相談できる場所があるとよい
病気・介護がいるようになったときにどうすればよいか具体的にわかっている
イベントがたくさんある
地域行事が盛り上がる
公民館の行事が大きなイベントでなく小さなイベントで回数がある
自分も変わっていくための機会がたくさんあるとよい（講演）とか
街や人の役に立てていると思える活動ができる
車を手放しても移動手段がたくさんある
移動手段が自家用車でなくてもある

⑥ 女性が利用したくなる（利用しやすい）公共施設

情報拠点（イベント広報）
余白＝交流
トイレの改修
カフェマシーン設置＆居心地向上（椅子・テーブル・BGM）

友だちと話しながら勉強できる場所
ちょっと座れるスペース
学生の自習スペースがある施設
話しやすい図書館を増やしてほしい
おいしいお茶が飲める場所
学生の自習スペースがある施設
カフェ併設の図書館
BGMが流れている
新しいコミュニティが生まれる場所づくり ふらっと行って話を聴いてくれるところ
性別・年齢関係なく気軽に話せる、話しかけられる場所
スマホの使い方を教えてくれる高齢者向けの施設
気軽に集まれる場所
幅広い世代で気軽に交流できる場所
イベントの実施
興味のある情報、何かを得て帰れる
中心地以外の地域でも大きな施設が欲しい
どこを使えるか、使うことが有効的なのか、相談できる窓口が欲しい
窓口の対応（ウェルカムな雰囲気）
優しい対応をしてくれる公民館が使いやすい
子どもを連れていける
雨天対応ドックラン＆散歩コース ときわ公園が雨で使えないときに使える場所
天候にかかわらず体を動かすことが出来る施設
ふれあいセンター2Fを利用しにくい 子ども（乳幼児）・高齢者 ベビーカーや歩行器が使えない
スポーツ施設足りない イベント誘致できる規模のものがあるといい
トイレの設備が不十分 バリアフリー、高齢者に優しい設備
清潔感のあるトイレ
公園付近に駐車場がない
駅やバス停等交通機関に直結した施設が少ない
ついでに寄れる場所にある
送迎車付きの図書館やふれあいセンター

これら 6 つのテーマは、地域well-being調査の結果とうべ女子ラボの協議から選定したものの（詳細は前掲）だが、タウンミーティングの意見を分析すると、多かれ少なかれどのテーマにおいても「**つながりの希求**」というポイントが見えてくる。

①女性が安心・安全に暮らせる地域 では、「人に頼れる地域づくり（顔が見える・助け合える・つながっている）」

②子ども・子育てに優しい地域では、「育児の助けを求めやすい仕組み」

③女性が「働く」ことで自分を活かせる地域では、直接的に「つながり」というキーワードは出てこないものの「家庭・地域・職場での男女での役割分業観を払拭する」や「子どもの頃から女性やお母さんが働くことへのイメージづくり・発信」などは、多様な生き方をする人たちとのつながりによる価値観の広がりがなければ、実現し得ないものである。

④女性や若者が活躍しやすい（意見が反映される）地域では、「テーマ別の座談会（定期開催）」や「仲間づくり（アイデアベースで募る・勉強会からのつながりを育てる）」などのアイデアが出されており、まさに「つながり」が解決策として提案されている。

⑤安心して老いることができる地域においても、「とにかく『つながり』『相談』『情報』』と言えるほど、老年期の安心のためには信頼できる人とのつながりが求められている。

⑥女性が利用したくなる（利用しやすい）公共施設では、居心地の良さや使い勝手のよい施設整備を求める声が多かったが、そうした施設を利用する時にイメージされていたのは、個人での利用というよりも、誰かと一緒に利用したり、施設における人との交流が想定されていたりしていた。

「余白＝交流」というのは、目的もなくふらっと立ち寄り多目的で自由な場があることで、散歩の休憩所としても使えるし、その場に居ると誰かと話す＝交流する機会が広がったり、有益な情報が目や耳に入ってきたりする。他方、スマホ操作の質問や、イベント参加などの目的で出かけることもある。そんな「誰か」が居てくれる施設や、そこに居合わせた人たちが言葉を交わせる場所のことを指している。

この「つながりの希求」を2つの方向から実現したいと考える。それが、提言Aと提言Bである。まずは、提言Bの老いる楽しみを育む「小さな拠点づくり」から見していく。

3. 提言理由と提言意図

3-1. 楽しみが集まる「小さな拠点」

政策としてなんらかの大きな拠点づくりやイベント開催も考えたが、宇部市全域に広がるすべての女性の暮らしやすさを考えるとき、いまこそ、地に足がついた、実直な地域づくりの必要性を提起したい。

楽しみが集まる「小さな拠点」

【意義】

女性の暮らしやすさの向上にとって重要であり、特に④「安心・安全に暮らせる地域」や⑤「誰もが安心して老いることができる地域」の実現のために求められているのが「つながり」である。一人暮らしが増える地域、高齢化が進む地域で、人々が気軽に「歩いて通える小さな拠点」があることで、日常の相談や地域や健康などに関する情報を得ることができる他、趣味の仲間づくりや農産物や手作りの品の交換や買い物をなどもすることができる。また、都市部や山間部など、地域によって異なる利便性の平準化にも寄与する。

【求められる機能】

情報拠点（情報コンシェルジェ駐在）

交流拠点（集える場の提供）

カフェマシーン設置&居心地向上（椅子・テーブル・BGM）

トイレの改修

荷物や郵便の一時預かり拠点

「市」の開催や健康講座やイベントの開催

先に指摘したとおり、地域 well-being 調査においても、女性の暮らしやすさのポイントとして「歩く」ことへのこだわりが強く見られた。この小さな拠点づくりについても、「歩いて通う」ことを想定した取り組み（例えば、定期的な「まち歩き」イベントの開催やウォーキングや山登りのレクチャーイベントなど）をおこなう。

場所としては、既存施設の有効利用を考える。例えば、現在、市内 24 カ所にある「ふれあいセンター」や、支所、または自治会ごとにある自治会館など、どの施設が小さな拠点としてふさわしいかについても検討しつつ、来年度にはまず、パイロットスタディとして、いくつかの施設における実証実験をおこなう。

さらに、宇部市内のどこの拠点において、どんなイベントや集まりが開催されているかについて、オンライン上で検索ができるシステムを構築する。それにより、自分が参加や仲間づくりがしたいイベントにアクセスできるチャンスを増やす。

3-2. つながって元気を生み出す「うべ女子会」

提言Aの「うべ女子会」の定期開催については、特に、タウンミーティングの開催における参加者アンケート結果とグループ④女性や若者が活躍しやすい（意見が反映される）でのアイデアから発想した。

関連する参加者アンケートの意見を以下に示す。

・いろいろな世代の方とお話ができ、新たな気付きが多かったです。

・自分にはない意見などをたくさん聞くことができた。

・いろいろな世代の人たちと交流することができた。
・いろんな大人といろんな意見があっておもしろかった。
・実際に働いている人の意見が聞けて良かった。
・改めてこのようなテーマについて考えられ、たくさんの貴重な意見を聞いた。
・いろいろな考えを知ることができた。
・今回のような企画もすばらしいと思いますが、さらに気軽に意見を出せるような場があるともっと市民の意見が反映されると思いました。(例えば子育てサロンで一言記入して、ポストにインできるとか、誰もがやりやすい方法。)
・市民の意見が反映できる環境があるといいなと思った。
・ここでの話し合いが反映されると嬉しいです。市会議員と市民とのミーティングとかもあると面白いです。
・高校生のみなさん、子育て中のみなさんと年代が違う人とのワークショップをこれからも続けてください。
・このような会だとしても「子どもがいる家庭」が中心になりますが、単身者の割合が増えてきている点を視野に入れてみてほしいです。
・引き続き何らかの形で関わりたいと思いました。
・このきっかけを継続していただき、途中経過も今回の様にわかりやすい形式で実施していただけることを望みます。誰しものが、働いていることを楽しんでいけるまちづくりが楽しみです。
・これからもっとたくさんの意見を反映したまちづくりが進んでいくような気がしました。
・本当に今日の声 that 反映されることを楽しみにしています。子育て世代を大切にしてほしいです。
・タウンミーティングや会議だけで終わらず、何か一つでも実行に移して分かりやすく暮らしやすさが変わると嬉しい。
・今回の提案等をぜひ活かしていただきたい。
・出された意見を拾ってください。

このようにアンケートでは、今回のような皆で意見を交わす機会を設けること自体を望む声が多数寄せられた。ここで重要なのは、今回のタウンミーティング冒頭で、篠崎市長ご自身が市民の前で表明してくださった「女性の暮らしやすい地域にしたい」という意志である。この「姿勢」が市民に伝わることこそが重要であり、市民を動かす力にもなる。

そこで、市が先導し、「女性の声を集め、女性がつながり力になること(エンパワーメント)を支援する」という姿勢を広く見せること(広報活動)と、そこでの声を市政に活かすためのしくみやルートづくりを検討することまでを含めた「うべ女子会」の定期開催を提言した。

同時にこれは、女性や若者の意見を市政に反映させるためのしくみづくりでもあり、彼女・彼らの活躍を促進することにもなる。

つながって元気を生み出す「うべ女子会」

【意義】

現在、メディアなどで「日本一学生が活躍するまちづくり」が取り上げられることにより、宇部市が若者の活躍促進をしているとの認知が高まっている。

このように、女性や若者の声を積極的に市政に取り入れようとしているという「姿勢」を見せることが有効である。これは、広報戦略でもある。そのためテーマや対象者別で開催するWSをコンテンツとしてHPで公開する。

【方策】

テーマ別の座談会（定期開催・2,3ヶ月に一回の頻度）

アイデアを実現できる＝夢が叶う宇部（ヤル気が形になる宇部）

仲間づくり（アイデアベースで募る・座談会や勉強会からのつながりを育てる）

議員に声を届ける（座談会での議員と市民の交流）

おしゃれな交流スペース（若者や女性が常駐・カフェマシーン・地域について語る機会を設ける）＝市民活動センターとの協働

想定している「うべ女子会」の開催方法としては、毎回異なるバラエティー豊かなテーマや対象者を設定し、2,3ヶ月に一回のペースで市役所交流棟でのワークショップをおこなう。運営はうべ女子ラボ（大学生メンバーの増強）がおこない、その様子をHPコンテンツとともにSNSにおいても発信する。それにより、「女性たちの集まりや語りを支援する宇部」＝「女性が尊重されている」「女性の声を聞く」「女性が暮らしやすい」宇部市であるというブランディングを強化する。

また、そこで出た意見やアイデアを市に検討してもらうための「しくみやルートづくり」についても検討する。

うべ女子会の開催にあたっては、テーマに応じた企業とのコラボレーションや市議会議員の参加を促し、連携企業や参加者の両方がメリットを享受できるような設計をおこなう。

うべ女子会におけるテーマ(案)：

- ・そろそろ働き始めたいママたち（不安だけど、できるかな?）
- ・子どもたちが巣立ったばかりのママたち（淋しさを語ろう）
- ・（24自治会から2人ずつ女性を推薦してもらって）宇部の全方向から魅力を語る
- ・ペットとわたしが幸せに暮らせる宇部（今から飼いたい人も大歓迎）
- ・60代からの健康づくり（運動や栄養などの専門家による勉強会+語り）
- ・歩くの大好き（宇部のおすすめコースや健康への効果など）
- ・宇部のお酒の魅力を語る（Hybrige(ハイブリッジ)や永山本家酒造場とのコラボ）

付録 1. プロジェクトメンバー

「うべ女子ラボ」

【座長】

鍋山 祥子 山口大学

【メンバー】

1 大久保 晶恵 連合山口西部地域協議会

2 河口 美恵子 商工会議所青年部

3 小森 愛美 宇部市女性活躍推進企業(サブロクイメージワークス(株))

4 中野 香 主婦

5 若林 やよい 宇部市女性リーダー((株)ティーユーエレクトロニクス)

6 杉本 梨々愛 山口大学経済学部(学生)

7 山本 雄三 宇部市健康増進課

8 檀上 貴美 宇部市こども政策課

9 上田 梨恵 宇部市産業政策課

【オブザーバー】

1 岡田 陽菜 山口大学経済学部(学生)

2 倉橋 明子 山口大学経済学部(学生)

付録 2. プロジェクトスケジュール

4/16 顔合わせ (@研究室 w/宇部市人権・男女共同参画推進課)

4/17 構想打合せ (オンライン w/宇部市人権・男女共同参画推進課)

- ① スケジュール
- ② 調査準備

5/8 構想打合せ (オンライン w/宇部市人権・男女共同参画推進課)

- ① 宇部市総合計画 (R9 スタート) との関連
- ② ブランディング (女性が住みやすい地域) を実行
(徹底的なメディア戦術=TV、新聞、広報誌)
- ③ WG メンバーの庁内外のバランス

5/14 宇部市長との懇談

6/4 市民意識調査データ使用についての打合せ (オンライン w/宇部市人権・男女共同参画推進課)

- ① 市民意識調査データの利用は難しい
- ② 再度、庁内で協議
- ③ タウンミーティングは 11 月中に開催 (案)
- ④ 1/31 までに調査報告書の提出

6/16 宇部市男女共同参画推進課と協議

7/18 (金) 14 時~ (90 分程度) キックオフ: 第 1 回うべ女子ラボ

- ① 宇部市の状況と市長の思い*
- ② 本プロジェクトの進め方の説明
- ③ 地域 well-being 指標を利用した調査分析方法の解説

7/1 (火) アンケート調査開始 (7/31 (木) まで)

8~9 月中旬 鍋山による調査分析

9/29 (月) 14 時~ (90 分程度) 第 2 回うべ女子ラボ

- ① 調査分析結果の共有
- ② 意見交換 (タウンミーティングで WS をおこなう分野の選定など)

12/13 (土) 10~12 時 タウンミーティング (調査報告と WS)

12/13 (土) 14 時 FM きらら放送 鍋山が本プロジェクトについて説明

12~1 月 鍋山によるタウンミーティング分析と来年度事業案の考案

1/16 宇部市男女共同参画推進課と協議

2/4 (水) 15 時~16:30 第 3 回うべ女子ラボ

- ① タウンミーティングの分析報告
- ② 来年度の事業計画についての協議

2/27 (金) 14 時 市長への提言書手交

＊I 市長あいさつ骨子

- ・これまでも宇部市では女性の社会進出を促進するため、男女共同参画や女性の働き方改革など様々な施策に取り組んできた。
- ・今回は、働き方だけではなく、たとえば健康面や個人の趣味など全ての面で女性の暮らしやすさをしっかりと追求していきたい。
- ・ウェルビーイング(幸せ)という言葉がある。女性の幸せを追求していくことは宇部市の発展につながると考えている。
- ・女性に「宇部市で暮らしてよかった」と考えてもらえるようなまちづくりを進めるために、ワーキンググループの皆さまから色々なご意見をいただきたい。
- ・皆さまにはそれぞれの立場から、「今はこんな暮らしだけど、こうなったらもっと暮らしやすい」といった理想を考えていただき、アイデアや考え方を積極的に発信してほしい。
- ・ワーキンググループの活動には、タウンミーティングという形で沢山の市民に参加してもらい、深化、進歩させていくことも考えている。
- ・普段考えていること、感じていることを率直に話していただいて、宇部市の発展にご協力を。

付録3. タウンミーティング参加者アンケート

*参加者 41 名中 34 名から回答をいただきました。(回答方法:紙:30、電子:4)

女性の暮らしやすい宇部市をつくるプロジェクトタウンミーティング

参加者アンケート集計結果

1 年代

10 歳代…9 人 20 歳代…1 人 30 歳代…3 人 40 歳代…6 人 50 歳代…7 人 60 歳代…6 人 70 歳代…1 人 80 歳代以上…0 人 未回答…1 人

2 性別

男性…1 人 女性…30 人 回答しない…1 人 未回答…1 人

3 イベントを知ったきっかけについて教えてください(複数回答可)。

市職員からの誘い…10
知人からの口コミ…7
チラシ…5
広報うべ…3
ポスター…2
市ウェブサイト…1
市 LINE…1
うべメールサービス…1
ラジオ放送…1
市 Instagram…0
シニア活動マッチングサイト「いくよう」…0
その他…10
・企業からの誘い
・11 月の鍋山先生のセミナーに参加して
・フロンティア大学の方からの誘い
・うべ女子ラボメンバー
・学校からの紹介(6)

4 ご参加いただいた動機を教えてください(複数回答可)。

宇部市のために何かしたいと思ったから…14
テーマに興味があったから…11
自身の考えを市政に反映させたいから…4

その他・・・5

- ・女性が住みやすい市について意見交換したいと思い参加しました
- ・探究活動に合っていたから
- ・子ども・子育ての支援について知りたかったから(2)
- ・未記入

5 イベントの満足度を教えてください。

満足・・・26

やや満足・・・7

どちらとも言えない・・・0

やや不満・・・0

不満・・・0

未回答・・・1

その理由

【満足】

- ・いろいろな世代の方とお話ができ、新たな気づきが多かったです。鍋山先生のお話もすぐ分かりやすく、改めて宇部市のことを知るきっかけになりました。ありがとうございました。
- ・「多様性」という言葉が周知されている中、「なぜ女性というくくりで考えるのか」という誰もか思う疑問をまず鍋山先生が紐解いてくださったこと、その上で調査結果も解説してくださり、土台ができた上でワークショップに入ることができました。
- ・自分にはない意見などをたくさん聞くことができた。
- ・いろいろな世代の人たちと交流することができた。
- ・いろんな大人と色々な意見があっておもしろかった。
- ・実際に働いている人の意見が聞いて良かった。
- ・改めてこのようなテーマについて考えられ、たくさんの貴重な意見を聞いた。

【やや満足】

- ・ごく当たり前のワークショップだった。進行が全部原稿を読みながらなのは、いかなものかと思う。
- ・いろいろな考えを知ることができた。

6 ワークショップでは十分に意見を出すことができましたか。

できた・・・16

ややできた・・・15

どちらとも言えない・・・0

あまりできなかった・・・1

できなかった・・・0

未回答・・・1

7 今後の宇部市のまちづくりの方向性に関するご意見を自由にお書きください。

(意見の反映)

- ・今回のような企画も素晴らしいと思いますが、さらに気軽に意見を出せるような場があるともっと市民の意見が反映されると思いました。(例えば子育てサロンで一言記入して、ポストにインできるとか、誰もがやりやすい方法。)
- ・市民の意見が反映できる環境があるといいなと思った。
- ・ここでの話し合いが反映されると嬉しいです。市議員と市民とのミーティングとかもあると面白いです。
- ・高校生のみなさん、子育て中のみなさんと年代が違う人とのワークショップをこれからも続けてください。
- ・このような会だとどうしても「子どもがいる家庭」が中心になりますが、単身者の割合が増えてきている点を視野に入れてみてほしいです。
- ・引き続き何らかの形で関わりたいと思いました。

(具体的な要望や提案)

- ・宇部新川駅にバスの路線図を設置してください。
- ・みんなが気軽に使えるような公共施設がもっと増えるともっといいまちになると思いました。
- ・友達と話しながら勉強ができる所がほしい。
- ・高齢者が元気なうちは貢献できる(ボランティア)仕組みがある(といい。)
- ・高齢者が住みやすい。女性・高齢者が幸せになれるようにお願いします。イベントをたくさんしてほしい。新しい市役所を使って、習い事などをやってほしい。

(今後への期待)

- ・現市長体制になってから、「市が変わろうとしている」ことが、若者も含め、市民によく伝わってきていると思います。このきっかけを継続していただき、途中経過も今回の様にわかりやすい形式で実施していただけることを望みます。誰しもが、働いていることを楽しんでいけるまちづくりが楽しみです。
- ・これからもっとたくさんの意見を反映したまちづくりが進んでいくような気がしました。
- ・本当に今日の声の反映されることを楽しみにしています。子育て世代を大切にしてほしいです。
- ・子育てのしやすさは以前に比べて良くなってきていると感じますが、まだまだ期待しています。
- ・とても暮らしやすいですが、よりよい宇部市になればよいと思っています。
- ・山陽小野田市在住の者としては、とても良いなと思っています。

- ・方向はいいと思うが、「他人事」ではなく「自分事」として動く市民（行政関係者を含め）をいかに増やすかが課題。
- ・タウンミーティングや会議だけで終わらせず、何か一つでも実行に移して分かりやすく暮らしやすさが変わると嬉しい。
- ・今回の提案等をぜひ活かしていただきたい。
- ・出された意見を拾ってください。
- ・発展をお祈りいたします。

付録4. メディア広報

第1回 うべ女子ラボ 山口新聞／宇部日報

第2回 うべ女子ラボ 山口新聞

タウンミーティング 宇部日報／FM きらら

第3回 うべ女子ラボ 宇部日報